

PRESS RELEASE

世界報道写真展 2018 記録された瞬間 記憶される永遠

World Press Photo2018



「自然の部 単写真」トマス・P・ベシヤク 2017年4月18日

東京都写真美術館 地下1階展示室 (恵比寿ガーデンプレイス内)
2018年6月9日(土)～8月5日(日)

総計約400万人が会場に足を運ぶ世界最大級の写真展、今年も開催！

■世界報道写真展とは

「世界報道写真展」は1955年にオランダのアムステルダムで、世界報道写真財団が発足したことにより、翌年から始まったドキュメンタリー、報道写真の展覧会です。毎年、1月～2月にかけて主に前年に撮影された写真を対象にした「世界報道写真コンテスト」が開かれ、十数人からなる国際審査員団によって選ばれた入賞作品が「世界報道写真展」作品として、世界中の約100会場で展示されます。年間を通じて、総計約400万人が会場に足を運ぶ世界最大級の写真展と言えるでしょう。

今、世界で起こっている現実を克明に捉えるプロの報道カメラマン達。その圧倒的な力量と息をのむような緊張感が伝わってくるような受賞作品の数々は、見る者の心に迫ります。

■世界報道写真展 全8部門について

コンテストの部門は「現代社会の問題」、「一般ニュース」、「長期取材」、「自然」、「人々」、「スポーツ」、「スポットニュース」、そして昨年の「日常生活」にかわり「環境」の部の全8部門。さらにそれぞれが「単写真(写真1枚)」と「組写真(複数の写真で構成)」に分かれています。入賞者は部門毎に各1位から3位までのいずれかに該当し、入賞者の中から、その年の最も優れた作品に対して「世界報道写真大賞」が贈られます。

■第 61 回世界報道写真展 応募総数と受賞者数

第 61 回目を迎える今回は 125 の国と地域から 4,548 人 のフォトグラファーが参加し、73,044 点 の応募がありました。今年、「現代社会の問題」、「環境」、「一般ニュース」、「長期取材」、「自然」、「人々」、「スポーツ」、「スポットニュース」の部の 8 部門において、22 カ国 42 人の受賞 が決まりました。日本人の応募は約 50 件あり、残念ながら入賞作品には選ばれませんでした。新聞社・通信社・雑誌社などに属するカメラマンや、プロのフォトグラファーが精力的に応募しています。2012 年のコンテストでは、AFP 通信の千葉康由氏、毎日新聞の手塚耕一郎氏、朝日新聞の恒成利幸氏（いずれも当時の所属）が、東日本大震災を捉えた写真でトリプル入賞しています。2016 年には「人々」の部の組写真において、小原一真氏が 1 位に選ばれました。

■国際色豊かな審査員団体

「世界報道写真コンテスト」は、フォトジャーナリズム専門家で構成される国際審査員団が審査に当たります。審査員団の顔ぶれは毎年変わり、審査委員長を中心に、審査手続きを行う事務局長が補佐します。審査員団は世界報道写真財団から独立した立場にあり、入賞作品の選定に審査員団以外が関与することはありません。また、全ての応募作品は匿名で審査され、票を持たない事務局長が審査過程の公平性を監督します。

—世界報道写真展 2018 開催概要—

■休館日 毎週月曜日（ただし 7 月 16 日開館、翌 17 日休館）

■会場住所 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
03-3280-0099 <http://www.topmuseum.jp>

■開館時間 10:00～18:00（木・金は 20:00、ただし 7 月 19・20・26・27 日、8 月 2 日・3 日は 21:00 まで）

※入館は閉館の 30 分前まで

■観覧料 一般 当日…800 円 前売り／団体 20 人以上…640 円
学生 当日…600 円 前売り／団体 20 人以上…480 円
中学・高校生 当日…400 円 前売り／団体 20 人以上…320 円
65 歳以上 当日…400 円 前売り／団体 20 人以上…320 円

※小学生以下無料
※チケットは東京都写真美術館およびセブンイレブン（店内マルチコピー機「セブンチケット」ボタンでお買い求めいただけます。前売り券はセブンイレブンで販売します（4 月 26 日～6 月 8 日）

■展覧会ホームページ <http://www.asahi.com/event/wpph/>

■主催 世界報道写真財団、朝日新聞社、阪神電気鉄道(大阪)、立命館大学国際平和ミュージアム（京都、滋賀）、立命館アジア太平洋大学(大分)

■共催 東京都写真美術館（東京）

■後援 オランダ王国大使館、公益社団法人 日本写真協会、公益社団法人 日本写真家協会、全日本写真連盟

■協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

—巡回予定—

大阪 2018 年 8 月 7 日（火）～8 月 16 日（木）ハービス HALL

大分 2018 年 9 月 16 日（日）～10 月 3 日（水）立命館アジア太平洋大学

京都 2018 年 10 月 6 日（土）～10 月 28 日（日）立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール

滋賀 2018 年 10 月 30 日（火）～11 月 11 日（日）立命館大学びわこ・くさつキャンパスエポックホール

掲載に関するお問合せ

「世界報道写真展 2018」東京展広報事務局 田中、三井

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル（共同 PR 内）

Tel: 03-3575-9823/FAX: 0120-653-545/E-mail: wpph-pr@kyodo-pr.co.jp

■全8部門の入賞作品

※①～⑧広報作品番号です。作品説明に関しては、撮影された写真を説明するためにカメラマン本人が付けたものを日本語に翻訳しております。説明が長いものに関しては、内容が改変されない範囲で適宜縮めていただきご掲載をお願いいたします。

① 「現代社会の問題の部 単写真」

ジェスコ・デンゼル (ドイツ)

2017年2月24日



危険にさらされるラゴスのウォーターフロント

ナイジェリアの都市・ラゴス、ラゴス礁湖の岸にあるマココ・コミュニティの運河を進む、国外駐在者たちを乗せたラゴス・マリーナからのボート。古い漁村で、違法に定住する人々で人口が膨れ上がっている。

② 「環境の部 単写真」

ニール・アルドリッジ (南アフリカ)

2017年9月21日



自由を待つ

麻酔をかけられ目隠しをされた若い白サイ。密猟者たちからの保護のために南アフリカからボツワナのオカバンゴデルタに移され、解放されるのを待っている。

③ 「一般ニュースの部 組写真」

イヴォール・プリケット (アイルランド)

ニューヨーク・タイムズに提供、2017年7月12日



モスルをめぐる戦闘

イラク軍特殊部隊の兵士によって手当てをうける身元不明の男の子。戦闘から数ヶ月たった7月初旬、イラク政府は、市街のあちこちで局地的な争いが続いているにもかかわらず、イスラム国 (ISIS) からモスルを完全に奪還したと宣言した。数千におよぶ市民がモスルの戦闘で殺され、街の大部分が廃墟と化した。

④ 「長期取材の部」

ファウスト・ボダヴィーニ (イタリア)

2011年7月24日～2017年11月24日



オモの変貌

多様な民族からなる約200,000人が居住する、エチオピアのオモ渓谷地方は、自然環境が極めて脆弱である。ギベ第3ダムを建設した結果、環境的にも社会的にも深刻な影響が及び、急速に変貌している。

■世界報道写真大賞の発表

各賞の1～3位の受賞者および世界報道写真大賞の作品は、4月にオランダの受賞式にて発表されます。結果はホームページ及びプレスリリースにて発表します。

⑤「自然の部 単写真」

トマス・P・ペシャク (ドイツ)

2017年4月18日



ジャンプ

インド洋に浮かぶ南ア領南極地域のマリオン島で、岩に覆われた海岸線を通り抜ける行動でその名にこたえるイワトビペンギン。

⑥「人々の部 組写真」

アダム・ファーガソン (オーストラリア)

ニューヨーク・タイムズに提供、2017年9月21日



ボコ・ハラムが自爆用の爆弾を縛りつけた。

どうにかティーン・エイジの少女たちは生き延びた。

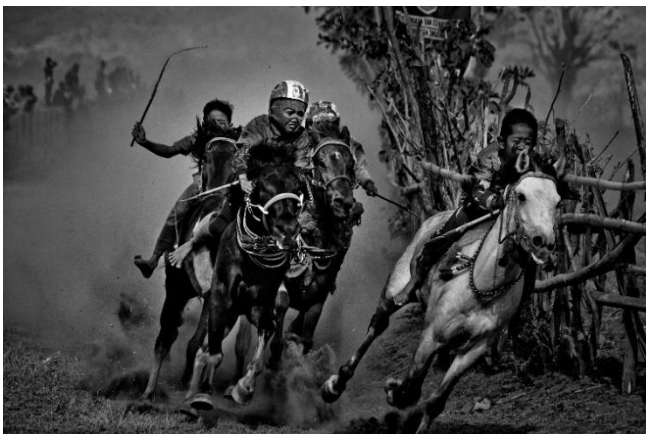
—— アイシャ、14歳

ナイジェリアのボルノ州にあるマイドゥグリでボコ・ハラムの戦闘員に誘拐された少女たちの肖像写真。爆発物を身体に縛りつけられ、人で混み合う場所で自爆するよう命じられたが、逃げ出して、爆弾を爆発させずに助けを得ることができた。

⑦「スポーツの部 組写真」

アラン・シュローダー (ベルギー)

レポーターズ、2017年9月24日



子どもの騎手たち

インドネシア、スンバワ島の伝統、マエン・ジャラン競馬では、子供の騎手たち(5～10歳)が裸足のまま防具もほとんど付けずに小さな裸馬に乗る。

⑧「スポットニュースの部 単写真」

ロナルド・シュミット (ベネズエラ)

AFP通信、2017年5月3日



ベネズエラ危機

ベネズエラのカラカスで、ニコラス・マドゥロ大統領への抗議行動中に機動隊との激しい衝突が起こり、火だるまになるデモ参加者のホセ・ヴィクター・サラザール・バルザ(28歳)。